



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER, 2-18-12 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

国際会長主題
アジア会長主題
東日本区理事主題
あずさ部部長主題
東京西クラブ会長主題

“Our Future Begins Today” 「私たちの未来は、今日より始まる」
“Respect Y's Movement” 「ワイズ運動を尊重しよう」
「明日に向かって、今日動こう」
「あずさ部は賜物の宝庫。もっと活かそうぜ！」
「楽しい例会を」

2017年1月号
NO 485

わたしの魂は夜あなたを捜し わたしの中で霊はあなたを捜し求めます。あなたの裁きが地に行われるとき 世界に住む人々は正しさを学ぶでしょう。
イザヤ書26章9節

新年のご挨拶

高嶋美知子

日本橋<2>名建築と老舗

WHOウォーキングのご案内

明けましておめでとうございます。

あつというまに半年がたちました。昨年は、クラブにとってはいろいろございました。はじめにクラブ40周年記念例会・祝賀会、本当にお疲れさまでした。11月にはDBCを結んでいる大阪西クラブ30周年記念例会に出席したこと、12月には山田紀子さんの退会、村野絢子さんの転入会、そして木原洗さんが神様のもとに召されました。

今年(後半)は楽しいことがたくさんあるのでは。そしてクラブ全員で会員増強を頑張りたいと思います。また大野貞次・次期あずさ部長のホームクラブとしてお手伝い、応援よろしく願いいたします。

また、先の12月事務会で、2017～2018年度のクラブ会長を本川悦子さん、副会長を石井元子さん

が引き受けてくださることの表明があり、お願いすることを決定いたしました。

私たちのクラブの新しい歩みができることとなります。是非皆様の力を貸していただき協力し、楽しいクラブ活動ができることを願っています。

また今月の強調テーマでもあるIBC/DBCをはじめ、他クラブとの積極的な交流にクラブ全体で務めましょう。

あと後半の半年を皆様の協力を得ながら努めてまいりますので、よろしく願いいたします。



日本橋の町の風景が急激に変わっています。脳裏に刻んでおきたい近代名建築と老舗を訪ねます。コースは、文士の住居跡、金融機関の発祥の地を巡った12月とほぼ同じです。
期日：2017年1月28日(土)
コース：JR 東京駅ー京橋明治屋ー日本橋高島屋ー東京証券取引所ー山三証券ー日証館ー三菱倉庫本社ー日本橋ー魚河岸跡ー三越本店ー日銀本店ー三井本館ー常盤小学校ー近三ビルー山梨中央銀行東京支店ーJR 神田駅

集合：JR 東京駅八重洲南口改札前 午前9時40分

解散：JR 神田駅 午後2時半

携行品：飲料、雨具、防寒具、敷物(昼食は室町コレド付近でとります)

クラブ役員

会長 高嶋美知子
副会長 篠原文恵
書記 本川悦子
会計 石井元子
担当主事 宮崎純

12月の記録		ニコニコ	7,950円
在籍者数 17人 (内功労会員) 1人	メネット 1人	クラブファンド	1,204円
出席者数 12人	コメント 0人	ファンド残高	153,814円
メーキャップ 1人	ビジター 5人	ホテ校ファンド	15,000円
出席率 72%	ゲスト 1人	ホテ校残高	61,873円
前月修正 -	出席者合計 18人	WHO参加者	36人

1月例会のご案内

今月の強調テーマ： IBC/DBC

YMCAのサービスクラブとして新年を迎えたこのとき、YMCAの活動を再認識することもよいのではないのでしょうか。

卓話は東京西クラブの担当主事をお願いいたしました。是非お友達を誘い出席していただきたいと思えます。

日時：1月19日(木) 18:45~21:00

会場：あんさんぶる荻窪 5階第2会議室

会費：1,500円(ゲスト、ビジター、メネット)

担当：C班(山田、大野、片平、小山、本川)

HAPPY BIRTHDAY

7日 石井 信雄 15日 小山多喜子
16日 堀内 浩二 19日 石井 元子

開会点鐘
ワイズソング
聖書朗読・感謝
挨拶と紹介
会食と歓談

卓話 「YMCAとグループワーク」 宮崎 純
東京西クラブ担当主事

ワイズ報告
YMCA報告
ハッピーバースデー
スピーチ(ニコニコ)
閉会点鐘

受付 大野 貞次
司会 片平 進一
高嶋 会長
一 同
山田利三郎
高嶋 会長
一 同

高嶋会長他
宮崎 主事
高嶋 会長
一 同
高嶋 会長

-12月第2例会(事務会)-

日時：12月22日(木)

19:00~21:00

場所：あんさんぶる荻窪 1F
第1会議室

出席者：石井、大野、神谷、鳥越、
高嶋、本川、吉田

<報告事項>

- ①12月のデータを確認した。
- ②12月の経常会計を承認した。
- ③会員の近況：長期例会欠席会員には、年内か年が明けてから会長と有志が訪問する。
- ④木原さん葬儀の生花について報告があった。奥様を例会に招待することについて、招待月等を協議した。

<報告事項・例会>

▲1月第2例会

日時：2017年1月26日(木)

19:00~21:00

場所：あんさんぶる荻窪 1F
第1会議室

▲2月例会

日時：2017年2月16日(木)

18:45~21:00

場所：あんさんぶる荻窪 5F
第2会議室

卓話者：未定

担当A班(吉田、篠原、鳥越、
村野、堀内)

▲2月第2例会

日時：2月23日(木)

19:00~21:00

場所：あんさんぶる荻窪 1F
第1会議室

▲3月例会

(東京世田谷クラブ合同例会)

ホスト：東京世田谷クラブ

日時：2017年3月17日(金)

担当：B班(神谷、石井、河原
崎、宮崎、竹内)

<協議事項・例会以外>

- ①次年度役員候補として、会長に本川悦子さん、副会長に石井元子さんが決まった。1月例会で承認を得ることにした。他の役員、委員長については、1月中に決定する。

(書記・本川悦子)

会計からのお願い

下半期の会費を例会に持参か、振り込みでお願いいたします。

振込先

みずほ銀行方南町支店

普通預金 8027928

卓話者紹介

宮崎 純(みやざき・じゅん)さん

1961年12月7日生まれ。

2016年4月より東京西クラブの担当主事として迎え、現在は国際ホテル専門学校の校長として勤務されています。

YMCAとの出会いは小学生の時に武蔵野YMCAのプログラムへの参加だそうです。その後YMCAに勤められ、様々な部署を経験され、この専門学校は2度目の勤務になるそうです。

今後の行事予定

*東西交流会

日時：2017年2月4~5日

場所：御殿場 東山荘

*あずさ部評議会

日時：2017年2月11日(土)

場所：山手YMCA

*次期クラブ会長および次期部役員研修会開催

日時：2017年3月4(土)

~5日(日)

場所：御殿場 東山荘



クリスマス例会：会食・歓談の一コマ

－12月クリスマス例会報告－

12月例会は恒例のクリスマス祝会。12月15日、会場はこれも恒例になりつつある荻窪駅近くのフランス料理店“クレール・ド・リュヌ”。ここは料理が美味しいと当クラブ女性陣のもっぱらの評判のお店。ゲスト・ビジター6人を迎えて19人でクリスマス会を楽しんだ。

冒頭に12月2日に逝去された木原洗さんを悼み、黙祷を捧げた。

高嶋会長の点鐘で開会、ワイズソング斉唱、聖書朗読の後、竹内隆さんによる今日の聖句に因んだお話を伺った。キリスト教で言う愛（アガペー）は、肉親の愛、博愛、本能的な愛とは意味合いを異にする本質的な愛即ち隣人愛、良心の愛、好き嫌いを超えた愛であって、私たちワイズメン、YMCAのメンバーはこの愛をもって全人類のためにより良い世界を築くために奉仕するものでありたいとお勧めであった。

続いて山田利三郎さんの音頭で乾杯して楽しいディナー。シェフの心づくしのフランス料理と少々のビール・ワインを飲み食いしながら歓談すること約1時間。お愉しみは、山田利三郎さんがいつものように用意してくださった歌集によってクリスマスソング数曲を全員で歌い、イエス・キリストの生誕をお祝いした。その後、12月生まれの方々をお祝いし、ワイズ報告、閉会点鐘をもって定刻、お開きとなった。

(神谷幸男)

出席者：＜メンバー＞石井、大野、

片平、神谷、河原崎、高嶋、竹内、鳥越、本川、山田利、吉田、＜メネット＞神谷、＜ゲスト＞秋本泰臣、＜ビジター＞田上正（熊本むさし）、藤井寛敏（東京江東）、長谷川あや子（東京八王子）、中澤正子・藤江喜美子（東京たんぼぼ）

－12月WHO報告－ 日本橋の街歩き第一弾

日本橋（町）には、訪ねたいスポットが多くあります。12月17日は、日本橋（橋）の南北にある日本の近代金融の発祥の地と文士旧居跡を中心として歩きました。参加者は36人。

江戸時代に漂着し、徳川家康の相談役となったヤン・ヨーステン、三浦按針、歌川広重、芭蕉、其角、漱石、竹久夢二、谷崎潤一郎、渋沢栄一らのゆかりの地、銀行、郵便の発祥の地、東京証券取引所、日本銀行本店、貨幣博物館を訪ねました。洋食の名店「たいめいけん」の上階にある風博物館は、2班に分かれて見学しました。

中央区のガイドでもある樋口順英さん（東京グリーン）に、随所で説明をお願いしました。

昼食は、三越本店前の室町コロシアム付近で、それぞれ好みの店で食べました。福德神社に再集合して、それぞれ自分の入った店と味を自慢し合いましたが、一番ウケたのは、「にんべん」のダシをきかせた味噌汁でした。

ワイズ関係の参加者は、石井・吉田（東京西）、中澤・藤江（東京たんぼぼ）、樋口（東京グリーン）でした。（吉田明弘）



WHO12月、日本橋貨幣博物館

◆「熊本大地震復興支援マラソンチャリティーコンサート」が、最終回を迎えました。様々なジャンルの音楽家たちがコンサートでバトンを繋ぎ、19回に渡り開催され、延べ800人を超える来場者がありました。益金総額1,859,611円は、熊本YMCAを通して被災した方々を支援する活動のために用いられます。

◆11月17日、「YMCA/YWCA合同祈禱会」が在日本韓国YMCAを会場に開催されました。『誰も置き去りにしない』というテーマのもとに大久保正禎牧師（日本基督教団王子教会）から「ひとりを探しにいかないか？」と題してメッセージを頂きました。各YMCA、YWCAから約50人が集い礼拝と懇親の時を持ちました。

◆11月26日、山手センターにて「ソシアスフォーラム」が『共に語ろう東京YMCAの未来を！～中期計画とブランディングから～』をテーマに山手センターで行われ、約50人が参加しました。東京YMCAの今後の活動や広報の在り方等が幅広く語り合われました。

◆東京YMCAのホームページがリニューアルされました。全ページをスマートフォン対応とし、トップページからはワンクリックで希望の活動にアクセスできるなどの工夫がなされています。新設ページも加えられ、全体的な情報量も大幅にアップしました。是非ご覧下さい。

(担当主事・宮崎 純)

山手学舎(学生寮)募集

東京YMCAが運営する大学生のための寮です。

皆様の知り合いで、大学に合格者し、寮を探されている方をご紹介ください。募集人数は4人。

詳細は山手学舎へお問い合わせください

TEL：03-3202-7407

またはHP・山手学舎で検索。

松本クラブ・第18回私費留学生小論文コンテストアジア賞授賞式・報告と作品の紹介

2016年12月17日に松本市深志神社梅風閣で開催され、当クラブからは神谷・高嶋・大野の3人が出席しました。

第1部アジア賞授賞式が午後3時から行われました。

論文のテーマは下記の4つ。

1. 留学によって切り開く私の人生
2. 祖国と違う日本の風習、文化、なぜだろう
3. 私の祖国、住んでいる町、出会った人々、学ぶ大学
4. 人生の豊かさとは？ 自分はこう考える

今回応募した留学生は信州大学、松本大学の中国、韓国、モンゴル、ベトナム、ネパール、マレーシアからの25人の学生で、審査の結果、最優秀賞1人、優秀賞2人、佳作6人、審査員特別賞1人、伊藤賞特別賞1人、山梨YMCA特別賞1人が表彰され、それぞれ賞状と副賞が贈られました。

受賞者（最優秀賞・優秀賞）の3人がスピーチと講評、祝辞があり1部が終了。

2部はプレゼンテーション「あじあのひととき」、留学生による発表が行われました。

第3部はアジア賞留学生との交流会が17:00~19:00まで行われ終了しました。

今回も素晴らしい会でした。留学生たちの日本に対する思い、自国に対する思いを率直に日本語で語り表現され、審査委員長の北村明他氏の講評の中では国を超えた友情の輪を広げようという25人の高らかな青春賛歌と受け取りたいと結ばれていましたが、私も同感でした。ここで最優秀賞作品を紹介したいと思います。

* * *

テーマ 人生の豊かさとは？ 自分はこう考える 細い糸が織りな

す大きな布。

陳繹舒(チン エキズヨ) 信州大学教育推進センター・中国出身

「清々しい秋風の中、銀杏の葉が色づき、揺れている。空を見上げると、吸い込まれそうになる青さが心を落ち着かせた。松本の凜とした大気が体を軽く震えて、初めて今、自分は故郷と両親を離れ、交換留学で遙かな日本に暮らしていることを実感した。

私は少し不思議に思った。中国のほとんどの一人っ子と同じく、親の過保護に浸かりながら成長して来た私は、あまり独立心がなく、将来自分のコンフォートゾーンから抜け出し、海外へ留学に行くことなど、全く考えなかった。でも、あることが私の考えを変えた。

今年の春、大学2年生の私は中日青年砂漠緑化交流に参加して、中国の内モンゴルへ植樹ボランティアに行った。植樹をするとき、大きなスピーカーから、音楽が流れていた。その中に中島みゆきの『糸』という歌が流れていた。メロディが穏やかで疲れを癒してくれるので、毎回この曲を聞くと、私は静かに耳を傾けた。荒れた砂漠で、中国と日本の100人以上の青年たちが穴を掘ったり苗を運んだりしてはしゃいでいるのを見つめながら、歌詞が耳に入ってきた。

縦の糸はあなた、横の糸は私、織りなす布は、いつか誰かを温めるかもしれない

私はぼうっとして、思いを馳せた。この限りない砂漠に佇んで、自分を小さく感じた。この『地球倫理の森』というのは、『緑豊かな地球』を未来の子供たちへ遺すために、中日の青年が集まって木を植える、私は無言の交流にとても感動した。私たちの出会いは、まるで1本の縦糸と横糸が交錯するようで、そして私たちが創った森は、地球の未来を温める『ぬの』だと思う。

4日間の植樹活動で、本来荒れ果てた砂漠に何千本もの苗木が立った。数十年後のここはきっと緑豊かなところになると強く信じ、自分の心も豊かさを感じた。

この植樹ボランティアの活動は終わったが、私に与えてくれた影響はずっと続いている。水資源の豊富な中国東南沿岸部に住んでいる私は、以前は環境への関心はあまりなかったが、砂漠の様子を見て、そこの生活を体験した後、私たちは大自然と深く繋がっていることをつくづく意識して、水や木などの資源に対しても、絶対浪費しないように節約するようになった。

また、以前は自分の日本語にあまり自信がなくて、日本からきた留学生に声をかけることがなかなかできなかったが、この活動を通して、コミュニケーションで一番大切なのは語学力ではなく、交流に対する真心であることを分かった。そのため、だんだん積極的に日本後を話せるようになった。

そこで、新しい出会いには新しい人々だけではなく、新たな自分にも会えることを気づいた。たった1本の糸は何もなれないが、他の糸と一緒に合わせれば、布になる。私たちも新しい出会いによって自分の限界を打ち破って、潜在能力を掘り起こすのである。

いとしい子には旅をさせよ、と日本語にはこういう言葉がある。私もこの活動を機に、自分が勉強してきた日本語を試し、未知へ挑戦したいと思い、勇気を持って交換留学の決心をした。いろいろ不安を抱いたが、日本に来た初日に、また不思議な出会いを経験した。(後略)

最後に陳さんはをこうまとめています。「コンフォートゾーンから抜け出した、新しい出会いによって自分の視野を広げ、人生の豊かさを追い求めていきたい。」

(大野貞次)

☆☆ インタビュー ☆☆ 山田 敏明さんに聴く

* * *

山田敏明さん（十勝）。こんなに能弁とは思いませんでした。



—山田さんは十勝生まれですか。

「ええ。曾祖父が 1899(明治 32)年に富山からの入植し、私で 4 代目。Made in TOKACHI です」
—どんな子どもでした。

「元気はつらつ、いじめっ子タイプの世間知らずの「わんぱくガキんちょ」でした
—牧場と農場を経営されていますね。

「現在、スタッフ 7 人と共に乳牛 470 頭を飼育しています。150 ヘクタールの中で、飼料作物を中心に小麦、キャベツ、白菜、かぼちゃ、アスパラも作付しています」
—冬の間の作業は。

「冬でも、朝 3 時 30 分からスタート。230 頭の搾乳をします。真冬は、 -25°C まで下がりますが、ホルスタイン種は、比較的寒さには強く、ミルクを生産してくれます」

—冬の楽しみは。

「十勝は温泉。モール温泉ですね。特別な用事や出張がない限り、毎晩近郊の温泉三昧、そしてサウナと水風呂。たまにはマッサージも気持ちいいですよ」

—とにかく広大な大地。十勝のワイズメンが「畑にヘリコプターが降りてきて道を聞いて。また飛んで行った」と言っていました。

「そういうこともあるでしょうね。日本の食料自給率が 39%といわれて久しいですが、食料生産基地である十勝は、1000%を超えて

います。逆を言えば、人間が少な過ぎるからです。東京とは異次元の世界。もし十勝に来られたことのない方がいたら大歓迎です」
—時々、i-pad で細かい表をみておられることがありますね。

「農業の世界も IT 化の最先端ですし、世界の情報がたくさん溢れています」

—アメリカにも出張されますね。

「酪農最先端の北米に年に 3 回位、出張します。カナダ・オタワ近郊の牧場とも提携しています」
—ワイズの話に移ります。山田さんはずいぶん若くして入会されていますね。

「私は、地元の畜産大学の学生の時に、帯広 YMCA のリーダーをやっていました。十勝クラブの池田正勝さんが、当時帯広養護学校の教師で、YMCA の『こぐまキャンプ』を主宰されていて、その所属のリーダーとして、野外や体育の活動をさせてもらいました。その最大のサポーターが十勝クラブでしたからクラブとも交流もありました。やはり、その当時から尊敬する池田さんの存在は、今でも大きいです。

卒業後、カナダの牧場で実習することが決まっていたので、『カナダにもクラブがあるし、何かと役に立つよ』と勧められ、大学 4 年次の 1986 年 10 月 21 日に入会式、晴れて十勝ワイズの仲間入りをさせていただきました。

1984 年に渡航し、その年、牧場から休みをもらって、ミシガン州グランドラピッズで行われた国際大会に参加させていただきました。竹内敏朗さんが国際会長に就任された年です。日本区から参加された皆さんによくいただきました。なんせ 23 歳の若造でした。

カナダの牧場では、2 年間実習しましたが、IBC であるデトロイトのサウスオークランド訪問、ミシガン区大会の参加など、当時の活発であった北米のワイズを目

に焼き付けてきました。また、オハイオ州トレド市の YMCA を訪ね、P. W. アレキサンダーの記念の棚を探し当てました」
—ワイズに入って一番の思い出は何でしょう。

「38 歳の時、第 18 回アジア地域大会の事務局長をやらせていただいたことです。立候補した時は、日本区でした。東西日本区へのアピール、そして大会運営など、貴重な体験をさせていただきました」

—素晴らしい体験ですね。クラブの活動で心に残ることは。

「なんといってもじゃがいもファンド事業です。すでに 40 年を経過しましたが、今でも全国のワイズの支援を得て、十勝クラブのみならず、とちかち帯広 YMCA に波及し、結果的には十勝の経済を潤す事業となっています。感謝しています。益金で、ここ 6 年間は、仙台 YMCA を通して、東日本大震災の被災者住宅の方にかぼちゃを送っています。また本年度は、熊本のクラブを通して、野菜の 3 種詰を 500 ケースお送りさせていただきました」

—パートナーの康子さんは、地元の方ですか。

「十勝の出身です。結婚当時は、国立療養所の看護師をしていましたが、2 年前退職し、今は、わが牧場を手伝ってくれ、真のパートナーになってくれました」

—今、どんな夢を。

「日本の農業は、まだまだ伸びしろがある成長産業です。ワイズの方の顔を思い浮かべながら、消費者の皆さんに喜ばれる農畜産物を提供し続け、心豊かな仕事をするのが夢です。そして、後継者が喜んでバトンを受けてくれるよう頑張っていきたいです。また、ワイズメンとして、感性の富んだ人間になるべく、気合を入れて邁進します」

—ありがとうございました。

(吉田明弘)

(D) 百歳長寿の前に立ちはだかる認知症②

認知症の予防についての研究成果や百寿者の調査が多く発表されているので、前号に続けて述べる。

h) 1日15ccのオリーブオイル

105歳、日野原重明医師は毎朝、リンゴやオレンジの果汁100%ジュース200ccに、スプーン1杯(15cc)のオリーブオイルをいれて、「グッと飲んで」と。

i) コーヒーは女性をますます長生きさせる

コーヒーのかぐわしい香り成分、コーヒーポリフェノール(クロロゲン酸)の量が、赤ワインのポリフェノールに匹敵し女性の寿命を延ばす。男性の場合には総リスクは特に変わらなかった。(宮崎県で1990年から10年がかりで行われた4万人の調査)

1日5杯以上コーヒーを飲む人は、殆ど飲まない人に比べ、肝臓

がんの発生率が4分の1に減少した。(厚労省の男女9万人、10年間の追跡調査の結果)

j) 噛むことでボケ封じ

アゴを動かすと脳の血流が増し、筋肉の収縮によりAMPKという長寿遺伝子を活性化する。忙しい人は夕食の時だけ、初めの一口を30回噛むだけでボケ退治となる。

k) 「腹7分目」で、がんも認知症も半分以下に

76匹のアカゲザルを、普通のエサの群と70%にエサのカロリーを制限した群に分けて飼育20年後、カロリー制限群は8割が生残り、病死5匹に対し、普通のエサの群は半分が死亡し、4割弱の14匹が、がん、糖尿病、心疾患、脳萎縮など加齢と関連の深い病気で死亡した。(ウイスコンシン大学-サーツ-遺伝子の活性は乏しいエサで)

(E) ボケない百歳の心

◎ときめきで脳の神経細胞が5倍に

生き甲斐とは「なにかにときめく」こと、心ときめく相手や趣味、目標のある人は、脳に新しい神経細胞が5倍も多く生成される。活動的で頭もよく使い、旅行に関心を持つことが長生きの秘訣との結論を得た。(ボストン大、百寿者千人の調査結果)

◎家族と同居でボケ防止

友人や子供が、週に1回以上訪ねてくる人の痴呆発生率は千人中僅か20人で、訪問が週1回未満では160人と8倍だった(スウェーデン)。

◎寂しがりやはボケる

元気な百寿者は、「将来に不安を感じない」という人が約8割、寂しいと思わない」「無力だと感じない」人も約6割だった。(元気な百寿者1,907人の調査)

(以下次号)

笑いの効用・良き人間関係の源 片平 進一

プラス思考の最も大切な実践の一つが「笑い」である。絶えず微笑む、またはよく笑うという習慣をつける。そしていつでもユーモア、時には駄洒落を用いて周りを楽しませる取り組みが脳の活性化につながる。

「一怒一老」という言葉があるが、具体的には、怒ると脳の細胞が3,000個ほど死滅するといわれている。逆に「一笑一若」は1回笑うと脳の細胞が5,000個も増えるという。笑いは素晴らしい。

普通、人が「笑う」のは、嬉しい、楽しい、または愉快なときだ。しかし、私がいう能力開発の「笑い」の意義は、つらい、悲しい、痛い、苦しい、腹立たしいといった最悪の状態の時にも笑おうというものだ。

「そんな時に簡単に笑えるものか」とおっしゃるかもしれないが、できないときはせめてニコニ

コするだけでもいい。それだけでも痛みや苦しみ、情けなさ、怒りといった感情が次第に消えていく。

「笑い」を「大中小」にわけてみる。「大」は大笑い、高笑い、爆笑がある。これは「よい笑い」である。「小」はスマイル、微笑、ほほえみなど「よい笑い」である。問題は、「中」の笑いである。例えば、苦笑、冷笑、失笑、嘲笑、そしり笑いなどである。「中」の笑いは人を馬鹿にした質の「よくない笑い」である。こうした笑いは極力しないようにするべきである。

* * *

ここは、メンバーのコラムです。日常で起こったこと、考えていることなど、ぜひ原稿をお寄せください。

編集後記

片平進一さんが推奨しているように常に笑顔で過ごしたいものです。

12月2日に仲間の木原ワイズを亡くし、寂しさと悲しみの中にある私たちですが、これからも笑顔を絶やさずワイズ活動をすることが求められているのかもしれない。互いに頑張りましょう。

アジア賞最優秀賞を受賞された陳繹舒(チン エキズヨ)さん(信州大学教育推進センター)は来日2ヵ月とのこと、この作文に驚きです。

余談ですが、2日・3日に行われた箱根駅伝、残念ながらわが母校は出場なしでしたが青山学院大学の3連覇見事でした。青山学院大学の卒業生のワイズメン、皆さま、おめでとうございます。

今回も寄稿下さった方々、ありがとうございました。感謝いたします。(TO)